

降雪時の円滑な道路交通の確保を目指し準備完了!!

「豊岡市除雪隊発隊式」挙行

11月30日、本格的な降雪シーズンを前に、防災公園で、豊岡市除雪隊の発隊式を行いました。

本市では、15cmの積雪で、原則午前4時に出動し、8時30分までに幹線市道の除雪を終えることとしています。

除雪延長は、車道と歩道を合わせて約740km。委託業者の協力も得て175台の車両で除雪を行います。この距

離は、直線距離で本市から岩手県盛岡市までに相当します。発隊式は、本庁の除雪隊員（都市整備部職員）約70人が参加。隊員は、市長から訓示を受けた後、除雪車両に乗り込み、車両に取り付けられた雪をかき分ける「スノープラウ」などの動作点検を行いました。

除雪隊は、平成31年3月まで、積雪時の道路交通の確保に努めます。



▲「除雪隊発隊式を執り行います!! 一同礼!!」

ドイツチームと東京五輪事前合宿に関する協定書に調印

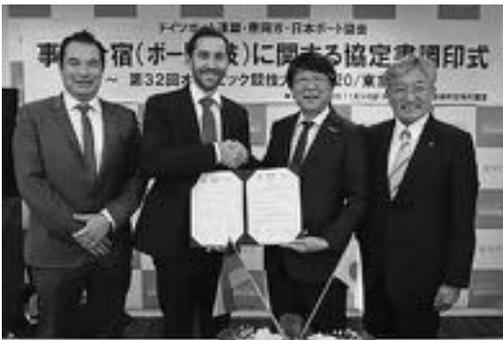
各国のボート事前・強化合宿の誘致促進

2020年の東京五輪に向け、ボート競技のドイツ代表チームが、本市で事前合宿することを決定し、11月14日、基本事項を定めた協定書に調印しました。ドイツチームは、19年10月の強化合宿の実施や、20年の事前合宿後に日独ジュニア選手を対象とした交流事業の実施についても検討されています。

フランスチームは、10月に強化副委員長らが円山川城崎

漕艇場、宿泊施設等を視察し、現在、19年9月ごろの本市での強化合宿実施についてフランスボート連盟内で検討されています。スイスチームも、8月に視察され、合宿の候補地になり得るとの感想をいただきました。

日本チームは、去年、今年との2年連続で、本市で強化合宿を実施しており、19年4月にも強化合宿を実施される予定です。



▲ドイツボート連盟のヴォルトさん(左から2人目)ら

「玄武岩の玄さん」新年をお祝い

2019年の干支「亥(いのしし)」にちなんで、年賀状などで使用できる「玄武岩の玄さん」のイラストを作成しました。

市ホームページからダウンロードして使用できます。

市ホームページ内のページ番号
1006677



▲猪突猛進



▲もちつき「玄?」「玄?」



▲玄さん登場10周年

主な市政の動き

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------|----------------|
| 11月 | 12日・京丹後市・豊岡市合同会議 | 22日・特定空家等略式代執行 |
| 13日・市議会臨時会 | 28日・平成16年台風23号メモリアル事業「防災学習会」 | |
| 14日・ドイツ代表チーム(ボート競技)の事前合宿に関する協定書調印式 | 29日・豊岡市総合教育会議 | |
| 16日・高年齢者向け「スマートフォン教室」 | 30日・市議会定例会開会(12月26日) | |
| 19日・豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会 | 12月 | |
| | 1日・豊岡市除雪隊発隊式 | |
| | 4日・地域福祉フォーラム | |
| | 4日・市民ふれあいのつどい | |
| | 4日・但東中学校と慶應義塾大学との連携授業 | |

過去の水害を振り返り、教訓を次世代につなげる

平成16年台風23号メモリアル事業「防災学習会」開催

11月28日、豊岡市民プラザで、豊岡河川国道事務所、但馬県民局と共催し「防災学習会」を開催しました。今後起こりうる想定を超える災害にどう向き合い、どう対応すべきか地域防災のあり方について多くの参加者が考えました。

最初に、東京大学大学院特任教授の片田敏孝さんが講演。片田さんは長年、釜石市(岩手県)で小・中学校の防災教育に携わり、東日本大震災で

自分だけで・家族だけで悩まない地域づくり

認知症あんしん大作戦「豊岡市認知症フォーラム」開催

11月18日、市民会館で、認知症を正しく知り、認知症になっても自分らしく安心して暮らせるまちを目指し「認知症フォーラム」を開催しました。フォーラムでは、50歳代後半でアルツハイマー型認知症の診断を受けた三田市在住の古屋一之さんが、「私にできること、あなたにできること」と題し講演。約300人を前に「認知症になってもみんな

と変わらない」「病気になる前と同じように接してほしい」と日ごろ抱えている思いを語りました。

認知症の人と家族を支援する保健師の清水美代子さん(高砂市)は「認知症に関わる全ての人が、本人と家族の声をしっかり聞き、交わり、知恵を出し合い、すべきことを紡ぐ地域づくりを」と訴えました。



▲対談で自助、共助、公助について話す片田さん(右)



▲自身の思いを語る古屋さん(左)と支援者

中貝市長の徒然日記 ⑬

女性たちの休日

1975年10月24日、アイスランドの女性たちが、一斉に休暇を取りました。90%の女性たちが、働くのをやめたのです。主婦は子どもを夫に渡して家を出ました。

保育所、学校、大型店、銀行、工場は閉鎖され、残された男性たちは、子どもたちを職場に連れていくか自宅で過ごす他はありませんでした。男性たちは職場で興奮する子どもたちをなだめるのに四苦八苦し、調理が簡単なソーセージは売り切れました。

通りは女性たちであふれかえりました。当時の写真には、「直ちに平等を!」「平等な賃金を!」等々のプラカードを持つて行進する、熱狂的な女性たちの姿が写っています。「女性たちの休日」と呼ばれるこの日、男性たちには「長い金曜日」となりました。「女性たちの休日」はこれまでに5回行われ、アイスランドは、男女の格差が世界で最も小さい国になりました。

この小さな国で起きた女性たちの反乱は、実に痛快です。豊岡でも起きればいいのに、と思います。豊岡では、アイスランドのように陽動的であつげらんとした行動ではなく、「静かな反乱」が深く進行しているからです。

「若者回復率」という数字があります。10代で多くの若者が豊岡を離れます。それを20代でどれだけ取り戻しているかを示す数字です。直近の数字は、男性52%、女性27%。5年間で男性は17ポイント上がったのに対し、女性は6ポイント下がっています。若い女性に選ばれていない。それが今の豊岡です。

なぜこんなことに?それは、豊岡があまりに男社会だからと市では考えています。市役所でも会社でも、地域社会でも、女性たちは補助的な地位に甘んじてきました。期待されていけないところに、のこのこ帰る人はそういません。この男女の格差をどう解消するか。豊岡の存続にかかわる大問題です。困ったなあ。でも、なんとかしなくっちゃ。